

# 東京大学医学部附属病院 消化器内科にて ご入院中にエコー（超音波診断装置）を用いて、看護師によ る末梢静脈カテーテル留置を受けた方へ

東京大学医学部附属病院では、末梢静脈穿刺時に一度の穿刺で末梢静脈カテーテル留置が成功する技術開発の研究に取り組んでおります。この研究は、看護師によりエコーを用いた末梢静脈カテーテル留置を実施された患者さんを対象に、どのような要因が穿刺成功に関連しているかを探索する研究です。

## 【研究課題】

末梢静脈留置カテーテル穿刺成功における要因分析（審査番号 2020126NI）

## 【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学大学院医学系研究科

社会連携講座アドバンストナーシングテクノロジー

研究責任者 村山陵子

社会連携講座アドバンストナーシングテクノロジー

特任准教授

担当業務 データ収集・データ解析

## 【研究期間】

承認日～2025年 3月31日

## 【対象となる方】

2019年6月1日から2020年3月31日の間に、東京大学医学部附属病院 消化器内科病棟（A棟11北病棟）において、看護師によりエコーを用いた末梢静脈カテーテル留置を実施された方

## 【研究の意義】

末梢静脈カテーテルを一回で留置成功できる確率は、従来のエコーを用いない方法で実施した場合60～70%と報告されております。多くの患者さんが複数回の穿刺を受けているという実態があります。エコーを用いて末梢静脈カテーテル留置を行った場合、85%～90%の留置成功率が見込まれました。詳しく成功要因を分析することにより、エコーを用いた末梢静脈カテーテル留置技術の発展に役立てることができると考えられます。

## 【研究の目的】

どのような看護師が、エコーをどのタイミングでどのように用いたかを過去の記録を用いて、調査し成功要因を探索します。

## 【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院医学系研究科・医学部長の許可を受けて実施するものです。

対象は、2019年6月20日～2020年3月10日までの間に、東大病院消化器内科病棟（A棟 11 北病棟）に入院し、エコーを用いて末梢静脈カテーテル留置を看護師に実施された患者さんです。参加予定人数は304名です。

穿刺実践の記録用紙に記録されている、末梢静脈カテーテルの留置目的、エコーを使ったタイミング、視診・触診所見、留置成功の可否、どのような看護師が留置したか、使用したカテーテルの種類、保存されているエコー画像を収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

#### 【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

収集した情報・データ等は社会連携講座アドバンスナーシングテクノロジー研究室の鍵のかかるロッカーで厳重に保管します。

すでにどの個人のものか特定できない状態で収集されたデータのため、あなたの情報・データなどを特定することはできません。

研究の成果は、学会発表や学術雑誌、国内及び海外のデータベース等で公表します。

収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。保管期間終了後には、電子データは消去、紙媒体のデータはシュレッダーにかけることで廃棄します。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。

この研究に関する費用は学術振興会 科学研究費助成（研究課題「点滴トラブル発生を予防する末梢静脈カテーテル留置管理基準：日本版の開発と普及」研究代表者 村山陵子）から支出されています。

研究代表者の村山陵子特任准教授と研究分担者の阿部麻里特任助教は、テルモ株式会社のサポートする社会連携講座に所属しておりますが、東京大学医学部利益相反アドバイザー機関に報告し、利益相反マネジメントを適正に行っています。

尚、あなたへの謝金はございません。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

2020年7月22日

#### 【問い合わせ先】

連絡担当者：阿部麻里

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院医学系研究科

社会連携講座アドバンスナーシングテクノロジー

電話：03-5800-9531（内線36077）

e-mail：mdoi-tky@umin.ac.jp